

## フェアトレード

— あなたの消費で世界を変える —



## フェアトレードとは

渡辺 龍也 Watanabe Tatsuya 東京経済大学現代法学部 教授\*

日本放送協会(NHK)、国際機関、国際協力NGO等を経て、2000年より東京経済大学教員。主な著書に『フェアトレード学—私たちが創る新経済秩序』(新評論、2010年)、『フェアトレードタウン“誰も置き去りにしない”公正と共生のまちづくり』(新評論、2018年)がある

\*執筆時

今日ではきっと多くの人が「フェアトレード」という言葉を見聞きしたことがあるのではないのでしょうか。筆者が2022年に行った全国調査では53.2%の人が見聞きしたことがあると回答しました。以前は10歳代や20歳代の若い人が多かったのですが、今では70歳代の人も半数が見聞きしたことがあると答えるなど、幅広い年代に知られるようになっていきます(この全国調査の詳しい内容は連載の中で紹介していきます)。

確かに言葉としては広く知られるようになってきたフェアトレードですが、それがどのような取り組みなのかまで理解している人となると4割に届きません(38.8%)。

そこで連載最初の今回は、フェアトレードとはどのような取り組みで、何を目的としているのか、そして従来の貿易とどう違うのかについてお話ししていこうと思います。

## フェアトレードとは

フェアトレードについてきちんと説明しようとするると意外と大変なのですが、かいつまんで言いますと「生産者や労働者の人たちが作ったものを私たちがフェア(公正)な価格で買うことで、彼らが人間らしい暮らしを送れるようにする貿易ないし取引のしくみ」ということになります。

日本に住む私たちの生活は、円高が急速に進んだ1980年代半ばから、アジアをはじめとする発展途上国からのモノ(食料品から電気製品まで)であふれるようになりました。その後バブ

ル経済がはじけて実質賃金が減少したり、非正規雇用が増えたりしても何とか生活できてきたのは、途上国からの安い輸入品のおかげといっても過言ではありません。

でも、なぜ「安く」すんでいるのでしょうか。確かに技術の進歩や物流の効率化などによって安さを実現できた面はあるでしょう。ですが、途上国の生産者や労働者の人たちが汗水たらして作ったモノが安く「買い叩かれて」きたことにも大きな原因があるのです。

フェアトレードは、そうした「買い叩き」をやめ、まとも(=公正)な価格で買い入れて消費者に提供することで途上国の人たちがまともな生活を送れるようにしましょう、という取り組みなのです。その意味でフェアトレードは、何か特殊、特別な取り組みではなく、生産者から消費者に至るすべての人たちが「ウィン・ウィン」となるような、まともな貿易や取引を実現しようとする取り組み、とすることができます。

フェアトレードの日本語への言い換えはいくつかあります。最も一般的なのは「公正貿易」ですが、それ以外にも「公平貿易」「草の根貿易」「民衆交易」などと言い換えられています。「お買い物を通じた国際協力」という表現もよく使われます。フェアトレード製品を買うことが、途上国で暮らす人たちが苦境から抜け出す助け(=国際協力)になる、というわけです。

## フェアトレードの定義と目的

以上、大まかにフェアトレードの説明をして

きましたが、実はフェアトレードにはそれなりの定義があります。2001年にフェアトレードを推進する4つの国際組織が集まり、共通の定義を打ち立てたのです。その後EU(欧州連合)なども使うようになった準公式の定義は、フェアトレードを次のように規定しています。

フェアトレードとは、より公正な国際貿易の実現をめざす、対話・透明性・敬意の精神に根ざした貿易パートナーシップのことを言う。フェアトレードは、とりわけ南の周縁化された生産者や労働者の人々の権利を保障し、彼らによりよい交易条件を提供することによって、持続可能な開発に寄与するものである。

やや難しい言葉も出てくるので説明していきたいと思います。まず「貿易パートナーシップ」という聞きなれない言葉が出てきますが、これは途上国の生産者・労働者の人たちから先進国の私たち消費者まで、貿易に関わる人や組織が互いにパートナーとして「対等」な関係に立つべきことを意味しています。

次に出てくる「南」という言葉は、南半球に多い発展途上国のこと(正確にはパレスチナのような「国」には至らない「地域」も含まますが便宜的に発展途上国とします)を指し、「周縁化された」という言葉は、社会や経済、政治の片隅に追いやられたということの意味する言葉です。また「よりよい交易条件を提供する」とは、より公正な価格で取引をすることを意味しています。

それらに勝るとも劣らず重要なのは、生産者や労働者の人々の「権利を保障」と言っていることです。つまりフェアトレードは、途上国の“貧しくてかわいそうな”人たちに救いの手を差しのべるといった“チャリティ(慈善活動)”的な活動ではなく、彼らが人として尊厳をもって生きていく権利、すなわち「基本的な人権」を保障し実現するための取り組みであることを宣言しているのです。

見落としがちなのは「とりわけ南の……」とい

う部分です。それは、フェアトレードが対象とするのはまずは苦境にある途上国の人々ではあるものの、究極的には先進国を含む世界中の周縁化された人々を対象とすることを含意しています。実際、先進国内で苦しい状況にある生産者や労働者の人々を対象にしたフェアトレードがすでに始まっています。

この定義には続きがあって、フェアトレードを実践し推進する団体について次のように言っています。

フェアトレード団体は、消費者の支持のもとに、生産者への支援、人々の意識の啓発、そして従来の国際貿易のルールや慣行を変革するキャンペーンを積極的に推し進める団体である。

ここで重要なのは「従来の国際貿易のルールや慣行を変革する」という部分です。つまり、公正な貿易のみならず実践するだけでなく、(公正ではない)従来の国際貿易を公正なものへと変革していくことをフェアトレードはめざしているのです。

以上を総合すると、フェアトレードは、途上国に限らず弱い立場に置かれた生産者や労働者の人たちの人権を保障し実現するとともに、商取引全般(英語のトレードは国際貿易だけでなく国内の取引も含む言葉です)を公正なものへと変革することによって、持続可能な開発に寄与することを目標としているのです。

## 従来の貿易との違い

それでは、フェアトレードは従来の貿易とどのように違うのでしょうか。従来の貿易、ないし今日主流となっている貿易は「自由貿易」と呼ばれるものです。世界の貿易は1990年代に始まる「グローバリゼーション」の進展にともなって自由化が進み、貿易のルールを定める世界貿易機関(WTO)が1995年に設立されると、アメリカをはじめとする先進国主導のもと、いっそう自由化に拍車がかかりました。

「自由貿易」とは、文字どおり誰からも規制や介入をされことなく自由に貿易できることなのですが、それにとどまらず、企業が国境を越えて自由に投資したり、生産したりすることも意味しています。

ところがその「自由貿易」も、実は「フェア(公正)であること」を重視しています。ただし、そこで言う「フェア」は、フェアトレードがめざすフェアとは水と油ほど違うものです。

なぜなら、「自由貿易」が重視する「フェア」は、自由な競争や自由な企業活動を許すことを意味しているからです。企業が自由に国境を越え、環境や人権を犠牲にしてでも利益を上げるために安くモノを作ったり、買ったりする自由が保証されていることが「自由貿易」の言う「フェア」なのです。もし自国の環境や生産者・労働者の人権を守ろうとして企業の自由な活動や貿易を制限しようとする、WTOのルールに反する「アンフェア」な行為だと他国から訴えられたり、制裁を課されたりすることがあるのです。

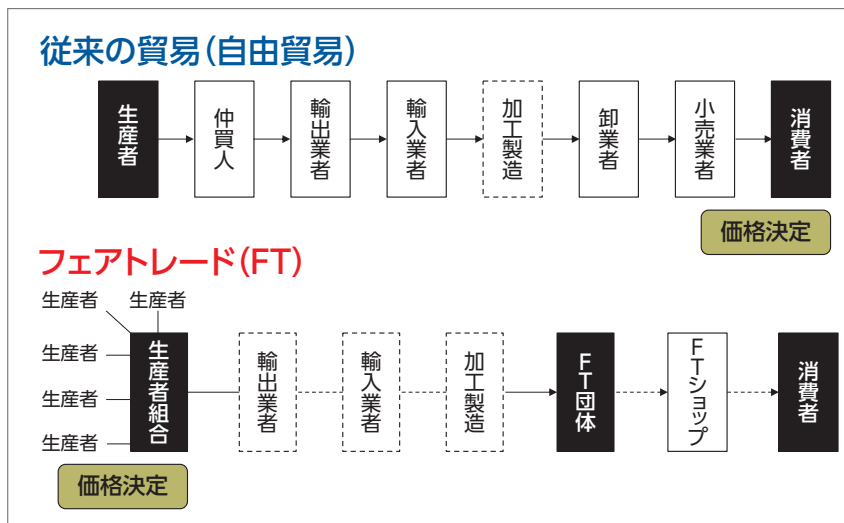
もう1つ、フェアトレードと自由貿易とでは取引の仕方や価格のつけ方に大きな違いがあります。右上の図を見てください。

従来の貿易では、途上国の生産者と先進国の消費者との間にさまざまな人や組織が介在します(加工製造業者が点線で囲われているのは、生鮮食料品等は加工製造の過程が通常ないため)。一方フェアトレードでは、生産者の取り分(収入)を増やすために極力介在者を減らして直接的な取引をします(ただし最近では一般の市場への進出を図るため間接的な取引が増えていきます)。また、生産者の力を強化するために組合を作ってもらい、そこを通して取引をします。

価格のつけ方、決まり方も大きく違います。

図 従来の貿易とフェアトレードの違い

\*筆者作成



従来の貿易ないし商取引では、一般的には小売市場で価格が決まります。消費者に買ってもらうため小売業同士が競って価格を安く設定します(その意味で価格決定権は消費者が握っていると言えます)。そのあとの卸や加工製造、輸入等の各段階で介在者がマージン(利ざや)をかせぐため、取引価格はどんどん下がっていき、生産者にはすべてのマージンが引き去られたあとのわずかな額しか渡らないこととなります。例えばバナナなら生産者が手にできるのは小売価格のわずか5%、チョコレートなら3%ほどだと言われています。モノによっては加工製造業者や輸入業者が価格決定力を持っていることがありますが、その場合でも生産者の取り分がわずかなことには変わりはありません。

一方フェアトレードは、生産者が人間らしい暮らしを送れるだけの価格を保証します。したがって価格は生産地で決まり、それに各段階でマージンが上乘せされていくので、消費者価格はどうしても高くなります。

以上、フェアトレードとはどのような取り組みで何をめざしているのか、そして従来の貿易とどのように違うのか、概略お分かりいただけたかと思います。次回は、なぜフェアトレードが必要とされているのかを、もう少し詳しく説明したいと思います。